

シリーズ④ 金融経済教育を語る

樋口 雅夫 氏 玉川大学 教育学部 教育学科 教授

授業実践事例〈リアルボイス〉

家庭科

池垣 陽子 先生 埼玉県立蓮田松韻高等学校教諭

公民科

水野 雄人 先生 東京都立東久留米総合高等学校教諭

高校生向け金融教育副教材

「明るい未来へTRY! ~リスクと備え~」のご紹介



INFORMATION

日本損害保険協会では、教員の皆さまや一般の方々に向けて、損害保険教育に関する情報を発信する

そんぽ学習ナビ を開設しています。

見やすく、分かりやすく、ほしい情報が手軽に入手できます



https://www.sonpo.or.jp/education/



損害保険教育情報誌「そんぽジャーナル」は、そんぽ学習ナビ で「創刊号」から最新号「第4号」までの全号をご覧いただけます。



https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/

一般社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

- List of member companies including: あいおいニッセイ同和損害保険株式会社, アイペット損害保険株式会社, アクサ損害保険株式会社, アニコム損害保険株式会社, イーデザイン損害保険株式会社, AIG損害保険株式会社, エイチ・エス損害保険株式会社, SBI損害保険株式会社, au損害保険株式会社, キャピタル損害保険株式会社, 共栄火災海上保険株式会社, さくら損害保険株式会社, ジェイアイ傷害火災保険株式会社, セコム損害保険株式会社, セゾン自動車火災保険株式会社, 全管協れいわ損害保険株式会社, ソニー損害保険株式会社, 損害保険ジャパン株式会社, 大同火災海上保険株式会社, 東京海上日動火災保険株式会社, トーア再保険株式会社, 日新火災海上保険株式会社, 日本地震再保険株式会社, ペット&ファミリー損害保険株式会社, 三井住友海上火災保険株式会社, 三井ダイレクト損害保険株式会社, 明治安田損害保険株式会社, 楽天損害保険株式会社, レスキュー損害保険株式会社

2024年1月31日現在(会員会社29社50音順)



この冊子は再生紙を使用しています

巻頭
インタビュー

金融経済教育を語る

成年年齢が18歳に引き下げられたことをきっかけにスタートした「公共」。今回は、文部科学省教科調査官時代に「公共」の科目設置に深く関わられた玉川大学教育学部の樋口雅夫教授に、その役割や重要性、金融経済教育の意義などを伺いました。

身に付けた知識を活用して
物事を選択や判断が
できる人を育成するために
スタートした「公共」

2022年度から高等学校の
公民科の必修科目として「公共」
がスタートしました。その大き
な理由は、同年4月1日より成

「公共」の中でも、金融経済教育は、 現実を生き抜く力を養うために重要。



樋口 雅夫氏
玉川大学 教育学部 教育学科 教授

●ひぐち・まさお
広島大学大学院教育学研究科
教科教育学専攻博士課程前期
修了。岡山県教育委員会、岡
山県立高等学校教諭、広島大
学附属福山中・高等学校教諭、
国立教育政策研究所教育課程
研究センター教育課程調査官
並びに文部科学省初等中等
教育局教育課程課教科調査官
を経て、2018年より現職。専門
は、社会科教育学、公民教育。

年
年齢が20歳から18歳に引き下
げられたことにあります。つま
り、高校生であっても、18歳に
なれば社会を担う大人と見なさ
れ、何かあったときには、本人
が自覚しているか否かにかかわ
らず、大人として責任を問われ
る場合があります。
高等学校1年もしくは2年で
履修する「公共」は、「大人」とし
て社会に参加するために必要な
知識を学ぶだけではなく、法や
政治、経済、金融などに関する
さまざまな課題に直面したとき
に、自立した大人として考え、
選択し、決断する力を身に付
けてもらうことを目的としてい
ます。

損害保険教育情報誌 **そんぽジャーナル**
第4号 February/2024

《目次》

3

巻頭インタビュー

金融経済教育を語る

「公共」の中でも、金融経済教育は、
現実を生き抜く力を養うために重要。



玉川大学 教育学部 教育学科 教授
樋口 雅夫氏

6

授業実践事例「リアルボイス」

ひとり暮らしを例として、
保険・貯蓄・資産運用を関連させた授業展開で
備えの重要性を理解



埼玉県立蓮田松嶺高等学校教諭
池垣 陽子 先生
〈今回実践した授業プランのご紹介〉

8

公民科



自助・共助・公助の概要を知り、
身近な事例から民間保険の必要性や役割を理解
東京都立東久留米総合高等学校教諭
水野 雄人 先生
〈今回実践した授業プランのご紹介〉

10

高校生向け金融教育副教材

明るい未来へTRY! のご紹介

生徒用教材

「生徒用冊子」
「動画」

■教員の皆さま向け

「教員用手引書」



12

INFORMATION

日本損害保険協会では、
教員の皆さまや一般の方々に向けて、
損害保険教育に関する情報を発信する
「そんぽ学習ナビ」を開設しています。

「教える人」から フアンシリテーターへ 変化する先生の役割

今までも、公民科には現代社会という科目がありました。知識習得が中心で、学んだ知識を実際に活用するための学習ではありませんでした。

しかし、時代とともに求められる教育活動も変化しています。今はすべての教科で、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。「公共」も、例外ではありません。学んだ知識を、しっかりと日常生活の中で活かしていくことができる。そうした力を身に付けられる授業が、教育の現場で必要となっています。

しかも、現代の社会問題を扱う「公共」では、学習する内容に

確たる正解があるとは限りません。それぞれの選択肢の背景に

ある考え方や事象について知り、生徒自身が考えることが重要だと思えます。そのため、知識の習得を目的とした座学主体の授業スタイルではなく、現実社会の課題をまず提示し、その課題について生徒一人ひとりにどう思うかを考えさせ、発表させていくというスタイルが中心になってきます。グループワークやディベートなどさまざまなアクティブ・ラーニングの手法を活用し、生徒の「考える力」を育むことに主眼を置いた授業が基本となってきているのです。

そうした中で、現場の先生方も、これまでのような「教える人」から、生徒の発言をうまく引き出していく「コーディネーター」やフアンシリテーターという

役割に変わってきています。

金融経済教育は 「公共」の中でも重要な テーマのひとつ

金融経済教育や消費者教育、社会保障、国際貢献、地球環境など、「公共」で扱うテーマは幅広く、しかも実社会で生きていくためにはどれも重要なテーマです。

金融経済教育については、今のように先行き不透明な時代の中で、従来のように「預貯金をきちんとしておけば大丈夫」というわけにはいきません。だからこそ、学校教育の中で、投資商品や民間保険といった、預貯金以外の選択肢を示すことは、生徒たちにとって大きな助けになると考えます。

例えば、民間保険は、自助、

共助、公助に関連づけて教えることが、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説公民編」にも示されています。

もちろん、共助・公助については今までも授業の中で教えてきましたが、知識として教えているだけでは、ましてや、自助に至っては、学校教育の範疇外と考えられ、授業で扱われることもありませんでした。それが今回の改訂によって、自助、共助、公助のバランスを考えると、この内容に変わりました。

一方で、民間保険や預貯金、投資などの金融経済教育は、専門的な内容も少なくありません。そのため、先生方にとって苦手な内容も多く、不足する知識をどうやって埋めていくかは、先生方としても大きな課題となっているようです。

金融経済教育の大切さは、先生方もよく理解されていますが、それをどのように教えたらいかが分からない。専門的過ぎて、自分の手には負えないのではな

Special Interview

巻頭 インタビュー



いかという不安もあって、授業で教えるところまで踏み出すことができないという先生も少なくありません。

実際のところ、先生方はかなり忙しく、一人で教材研究をするのは大変です。公民科には「公共」だけでなく、「倫理」や「政治・経済」などの科目もあり、

先生方はそれらすべてを教えることが求められるという現実もあります。

専門性の高い分野は その道のプロの力を 借りることも大切

公民科や社会科学の研究会は全国にありますし、先生方はそう

した研究会などで開催されている勉強会に参加し、実践発表を行ったりして、知識を深める努力をされています。ただ、変化する現実社会において最新の知識を身に付けていくためには、それぞれの業界の専門家の力を借りることも重要だと考えています。

自分一人では難しい部分は、外部の専門家が作ってくれた教材をうまく活用するのもよいと思っていますし、そういう形が今は少しずつ進んできていると感じています。

「公共」は、先生方が工夫する余地をたくさん残している科目です。だからこそ、専門家の力を借りることは、大きな意味があると考えています。

「公共」を学ぶことで、 社会を知り、社会を創る 意識を持ってほしい

「公共」を学ぶことで、生徒たちには、現実の社会を知り、その中で生きていく術を身に付けていってほしいと思っています。そして、「社会が自分たちのために何かしてくれている」あるいは「社会を批判的に見て批判だけする」というのではなく、自分たちが社会に関わっていく、社会を創っていくという意識を持ってもらいたいと思っています。

ひとり暮らしを例として、 保険・貯蓄・資産運用を関連させた授業展開で 備えの重要性を理解

教材「明るい未来へTRY!」の冊子や動画を用いて、2年生の家庭総合の授業を行った
池垣陽子先生に、今回の授業プランの特徴や目的などを伺いました。



埼玉県立蓮田松嶺高等学校
教諭
池垣 陽子 先生

高校の家庭科では、生涯の生活設計を家族・家庭や福祉、衣食住、消費生活・環境といった内容と関連付けて授業を行います。
現在、本校では「住生活」について学習しています。ひとり暮らしをするにあたり、すまいや契約に関することだけでなく、金融・経済を含めた展開を考えました。
貯蓄や保険の他に、資産運用も話



金融庁の資産形成シミュレーターで金融商品ごとの運用結果を説明する池垣先生

題にしたことが、今回の授業プランの特徴です。ひとり暮らしは高校生にとつてたいへん興味のあることですが、万が一のことに多面から備えておかなければなりません。生徒たちは将来的にひとり暮らしや結婚して新たな家族と住んだりするでしょうから、現実的なこととして考えられるように内容を構成しました。

いたとしても、予期せぬ出来事が起きたらどうなるか。それまで貯えていたものを取り崩したり、夢をあきらめたりすることになりかねません。必要な損害保険に加入することによって生活を安定させたり、生活再建の助けとすることができるので18歳で法的な責任が生じる成人になるからこそ、高校で損害保険について学ぶ必要性を強く感じます。

資産形成シミュレーターを利用したりするなどの工夫もしました。授業の終わりには振り返りを行いました。私の方で簡潔に結論を言って終了するのではなく、どうすればひとり暮らしができるか、安心してを、自分の言葉でまとめさせました。「火災保険などの民間保険の必要性を感じた。加入しておけば安心だと思ったので、自分にとって必要な保険を、しっかり見極めて契約したい」とか「必要な保険に入って、貯蓄もして暮らしに関する安全を手にするようにしたい。リスクを考えて長期で投資をしてみたい」など、理解が深まった手ごたえを感じました。

授業ではまず、リスクの備えとして、保険に関する基本的なことを理解させました。その後、火災や風水害、地震の被害に遭った際、保険でどう対処できるか、冊子掲載のWorkに取り組ませました。多くの生徒が失火責任法を初めて知り驚いていましたが、すまいに関するリスクが起ると、高額な損失が発生してしまいます。
生涯を見通した計画を立てる中で、子どもの教育費、住宅購入費、老後の生活費などの大きな出費に備えて

今回の授業では、教材として「明るい未来へTRY!」を使用しました。冊子も動画も要点がまとまっています。分かりやすく、生徒の食いつきがよかったです。1本あたりの再生時間が短いので、動画を活用してテンポよく授業を進められました。自分事としてより身近に考えられるよう、地震のリスクでは政府の地震調査委員会が公表している「全国地震動予測地図」を見せたり、資産運用では金融商品により異なる運用実績を実感できるよう、タブレットを使って

そのためには、計画を立て備えることを学ぶ意義は大きいと思います。

今回実践した授業プランのご紹介

家庭科[家庭基礎、家庭総合]

対応科目・単元 消費生活(リスク管理を踏まえた家計管理)

目的	プランのポイント	使用教材
<ul style="list-style-type: none"> ● すまいに関するリスクには、自分でカバーできないものが多いことに気づき、リスクに備える必要性和対処方法を知る。 ● 民間保険(損害保険)の役割について理解する。 ● 自身のライフプランを思い描き、生涯を見通した経済計画の重要性について考察し、実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 住生活の内容と相互に関連を図り、今後経験する可能性の高いひとり暮らしに関するリスクを題材に、実践的に学ぶ展開にしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「明るい未来へTRY!」 ・「家庭科用」(生徒用冊子/動画/パワーポイント) ・「やってみようこと編」(生徒用冊子/動画)

学習の展開 ※学習の前提として、家計管理の基本について終わっていることとする

時間配当 (分)	学習内容と指導上のポイント		使用教材等
	学習内容	ポイント	
導入 (8分)	① 家計管理について(前時の復習)。	▶ 家計の構造を理解し、収支のバランスを考えていくことの重要性を確認する。	動画 「憧れのひとり暮らしがしたい!」●4:05まで
	② ひとり暮らしで遭遇する可能性のあるリスクは何があるかを考える。	▶ リスクとは、(事故などにより)危険や経済的な損失が発生する可能性のこと。 ▶ 各自で考え、発表した後に動画を視聴させ、リスクに備える必要性に目を向けさせる。	
展開 (39分) 各配分 ① 8分 ② 4分 ③ 15分 ④ 12分	① リスクへの備え方を考える。 ・ 社会保険と民間保険 ・ 民間保険の種類 ・ 貯蓄と保険の違い	▶ 冊子の配布 ▶ 保険の種類や役割、「貯蓄は三角、保険は四角」の考え方について説明する。 ▶ 保険は相互扶助で成り立つ制度であり、安心を準備することでもありと補足する。	冊子 P.6~7 動画 「家庭科用 リスクに備える保険」●5:20~6:13 パワーポイント 「貯蓄は三角、保険は四角」
	② すまいに関係する保険(火災保険・地震保険)を知る。	▶ 動画でポイントを把握させる。 (家財の火災保険、借家人賠償責任保険、個人賠償責任保険など)	動画 「憧れのひとり暮らしがしたい!」●4:06~7:22
	③ すまいに関係する保険について、P21のWorkに班で取り組む。	▶ P31の資料②③を見ながら、班ごとに考えさせる。 ▶ 補足説明をしながら答え合わせをして、社会保険では保障されないからこそ、民間保険(損害保険)で備える必要性を再認識させる。 ▶ なぜ賃貸住宅の入居時は火災保険の加入が事実上必須なのかを投げかける。 ▶ 賃貸借契約における借主の義務を思い出させ、契約に係る責任の重さに気付かせる。	冊子 P.21、31
	④ 資産運用の種類と特徴を理解する。 ・ 金融商品の判断基準 ・ 主な金融商品 ・ 資産運用のリスクとリターン	▶ 支出に関するだけでなく、貯める方法や長期的な視点でお金を増やす方法を考えさせる。 ▶ 普通預金の金利の低さを金融庁の資産形成シミュレーターで体感させ、資産運用に目を向けさせる。 ▶ あくまでも余剰資金で運用するもので、短期的な備えには投資は向かないことを補足する。	【タブレット】 動画 「家庭科用 資産運用」●2:35~4:50 冊子 P.4~5
まとめ (3分)	● 本時の学習内容について振り返る。	▶ 収支バランスだけでなく、リスクへの対応を考えた家計管理と経済計画が必要であることを確認する。 ▶ 学んだことを自分の言葉でまとめさせる。	冊子 P.2~3

自助・共助・公助の概要を知り、身近な事例から民間保険の必要性や役割を理解

教材「明るい未来へTRY!」を組み込んで授業を行った水野雄人先生に、授業のポイント、自助・共助・公助や民間保険の概要を理解させる工夫などを伺いました。



東京都立東久留米総合高等学校 教諭 水野 雄人 先生

今回の授業のポイントは、自助、共助、公助のなかでも特に自助に着目し、生徒たちに人生で起こる様々なリスクに備えるためには何が必要かを考えさせたところです。授業は、「降水確率40%で傘を持っていくかどうか」という身近な質問からスタートし、リスクを想起しやすくなりました。人生におけるリスクを生徒たちに列挙させた上で、共助や公助でカバーできるリスクと、自助でしか備えられないリスクもあることを説明し、



「貯金は三角、保険は四角」の意味を説明しつつ、保険が重要な助けになることを説く水野先生

自助としての預貯金・民間保険の重要性について話しました。ただ、高校生にとって民間保険は理解しにくいと思ったので、「結婚して生命保険に入った」「自転車に乗っていて事故にあったので自転車保険に入った」など、私の経験も盛り込んだプリント教材を作成しました。これは生徒たちの反応がよく、身近な出来事と保険を結びつけることで、民間保険が必要となる状況がイメージしやすくなることを実感しました。

また、ワークでは、Aさん(26歳) 独身で健康体。最近大きな川沿いに木造の戸建て住宅を購入)とBさん(45歳既婚。持病があり入院歴あり。丘の上の新築マンションを購入)という仮想の人物を設定。この2人の生命保険と火災保険の保険料にはどんな違いが出てくるかということを生徒たちに考えさせました。ここでは、遭遇するリスクの高さが保険料につながっているということをおぼただけでなく、早い段階からリスクに

ついて考え、リスクをなるべく排除または軽減していくことも大切だという視点も養ってもらいたいと考えました。この回答は、ほとんどの生徒が分かっていたね。特に感心したのは、「建物の立地や構造だけを見ると、BさんのほうがAさんより保険料が安くなると思います。もしかししたらAさんはまだ26歳独身で収入も低いだろうし、家財も少ないだろうから、火災保険も安いものに入っている可能性があるのではないですか」と発言した生徒がいたことです。想像以上の答えが返ってきて、勉強になりました。

最後に、経済を学ぶ意義を理解してもらうため、共助・公助重視型の国と自助重視型の国のどちらがよいかを考えさせました。また、次の授業ではより一層自助に焦点をあて、資産形成の授業を行いました。これは、財政や社会保障制度、そして資産形成などが相互に関係しあっているということを生徒に伝えたかった

からです。今回は教材として「明るい未来へTRY!」を直接使用はしませんが、こちらを参考にプリントを作り、保険を説明する図版も参考にしました。「明るい未来へTRY!」は、読めば読むほど分かりやすく、実際にこれをもとに授業をつくり始めると、「改めてよくできているな」と再認識しましたし、触

民間保険への加入は、自らが抱えるリスクを減らすための重要な選択です。しかし、むやみに多くの民間保険に加入することはかえって家計を圧迫し、これでは自助になりません。生徒自身にとって本当に必要なものは何かを判断する力を養っていくことが重要だと考えています。この授業を通して、生徒たちが社会保障制度を理解しつつ、自身にとって必要な自助を適切に選択することが大切だというメッセージが伝わればと思っています。

今回実践した授業プランのご紹介 公民科[公共、政治・経済]

対応科目・単元 時事社会・社会保障と民間保険 (※「時事社会」は1年次に履修した「公共」の知識をベースにより発展的・実践的な内容を学ぶ本校定時制の独自科目である。履修対象者は卒業年次(3・4年次)である。)

目的	プランのポイント	使用教材
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会保障制度と民間保険(特に損害保険)の役割について理解する。 ● 日本の社会保障制度の現状と課題について理解する。 ● 生活上直面する様々なリスクにどう対処していくかを考察する。 ● 民間保険の学習において、自助・共助・公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすべきかを考察する。 ● 社会保障の在り方として、高福祉・高負担か、低福祉・低負担などの視点から考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説の公民編において、公共では「貯蓄や民間保険」に触れることが明示されている。 ▶ 金融庁の老後2000万円問題や資産形成の必要性がうたわれ、共助や公助(公的な社会保障制度)だけでは生活上のリスクに対処しきれないことに気付かせる。 ▶ 自助の部分では、自らの遭遇したリスクや経験を踏まえ、貯蓄だけでなく民間保険(生命保険・損害保険)を上手く活用していく大切さについて伝える。 ▶ 様々な事情を抱える夜間定時制課程の生徒でも主体的・対話的な深い学びが実現できることを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「明るい未来へTRY!」・「公民科用」(生徒用冊子) ■ 「時事社会」プリント* ■ スライド* <p>*プリント、スライド是水野先生が用意したオリジナル教材。</p>

時間配当(分)	学習内容と指導上のポイント		使用教材等
	学習内容	ポイント	
	本時の主題 人生のリスクを踏まえて、社会保障制度と民間保険の役割を理解する。		
導入(5分)	● 明日の降水確率40%で傘を持っていかを考えると、人生で遭遇する可能性のある様々なリスクを書き出す。	▶ 身近なリスク(降水確率等)を取り上げ、これから遭遇するであろう様々なリスクを想起させる。	【プリント】
展開(40分)	● そのようなリスクへの対処として民間保険や公的な社会保障制度(共助・公助)があり、共助・公助(公的な社会保障制度)のしくみについて理解する。	▶ 社会保障の4つの柱は必須事項として押さえる。健康保険証や生活保護などの詳細にも触れる。	【冊子】 P.8~9 【プリント】、【スライド】
	● 老後2000万円問題、健康寿命と平均寿命のギャップ、資産形成の必要性などに触れ、共助・公助のみではカバーしきれないことを理解する。	▶ 新聞記事の見出しを活用(NIE*)し、年金(共助)のみでは限界があることを強調する。	【プリント】、【スライド】
	● そこで大切になってくるのが自助であり、貯蓄や民間保険という選択肢があることを理解する。	▶ 貯金は三角、保険は四角という考え方を押さえる。	【冊子】 P.12 【プリント】、【スライド】
	● 水野先生が今まで遭遇したリスクを踏まえ、どのような備えがあれば対処できたかを考える。 ↓ 2つの保険商品を例に、個人の状況によって保険料に差が出ることや保険料によって保障(補償)内容が異なることを理解する。	▶ 健康診断の結果、自転車での事故、結婚式の延期、自然災害といった様々なリスクに直面したことを伝え、自助(特に民間保険)の必要性を強調する。生命保険・損害保険のシミュレーションワークを行う。	【プリント】、【スライド】
	● 仮想2つの国のストーリーから、共助・公助重視型 or 自助重視型のどちらが良いかを考える。 ↓ 経済を学ぶ意義について理解する。	▶ スウェーデン(共助・公助重視型)、アメリカ(自助重視型)を例に、社会保障のあるべき姿を考える。経済(経世済民)という言葉の意味を考える。	【冊子】 P.13 【プリント】、【スライド】
まとめ(5分)	● 授業の振り返りとして時事キーワードをおさえる。	▶ その日学んだ内容の要点を毎回の授業で確認している。	【プリント】

*Newspaper in Educationの略。新聞を学校教育の教材として活用する取り組み。

「明るい未来へTRY!」 ～リスクと備え～

の紹介

家庭科、公民科の学習指導要領解説に沿って活用可能な教材です。生徒用教材には3種類の媒体(冊子・動画・パワーポイント)があります。また、教員の皆さま向けとして、教材の活用方法の参考となる「教員用手引書」や「授業展開例動画」を用意しています。

本教材の構成

「明るい未来へTRY!」は、次の4つのテーマで構成されています。

- 家庭科用
- 公民科用
- やってみたいこと編
- 保険のキホン編

本教材の使用例

利用したいテーマを選択して個別に学習する

テーマを順に学習して保険への理解を深める

本教材は、どのテーマからでも始めることができます。授業内容に合わせて必要なテーマのみを学習することも可能です。

最初に「家庭科用または「公民科用」を学習し、次に「保険のキホン編」で保険の知識を学び、さらに「やってみたいこと編」で損害保険について詳しく学習する、といった流れで学習を進めることができます。

生徒用教材

生徒用冊子

生徒の興味・関心をフックに「保険」について学習することが可能な教材です。授業の流れに合わせて各テーマを選択できます。



A4サイズ/40ページ

動画

生徒用冊子の内容をもとに作成しており、計11編を用意しています。例えば授業の導入時やWorkをクイズ形式で解かせるときなどに利用できます。また、動画のみでも学習を進められますので、生徒の自主学習にも活用可能な教材です。

家庭科用 2023年春の改訂で新設

将来に備えた経済計画を考えよう

「家庭科用」では、家庭基礎、家庭総合の「経済計画とライフプラン」の単元に対応した学習ができます。ライフステージと各イベントに必要なお金の例をあげながら、自分の目標や夢を叶えるために必要なお金の準備の仕方や、不測の事態への備え方など、経済計画の組み立て方などについて学ぶ内容としています。

「家庭科用」では、家庭基礎、家庭総合の「経済計画とライフプラン」の単元に対応した学習ができます。ライフステージと各イベントに必要なお金の例をあげながら、自分の目標や夢を叶えるために必要なお金の準備の仕方や、不測の事態への備え方など、経済計画の組み立て方などについて学ぶ内容としています。

全1編

- オープニング映像
- 生活設計を考える
- さまざまなライフイベントに備える資産運用
- リスクに備える保険

再生時間 約6分50秒

公民科用 2023年春の改訂で新設

自助・共助・公助の適切な組み合わせについて考えよう

「公民科用」では、公共の「社会保障の役割」の単元に対応した学習ができます。それぞれの人生において起こりうるリスクの例をあげながら、共助・公助としての社会保障制度自助としての保険、日本の社会保障制度の課題や自助・共助・公助の適切な組み合わせなどについて学ぶ内容としています。

「公民科用」では、公共の「社会保障の役割」の単元に対応した学習ができます。それぞれの人生において起こりうるリスクの例をあげながら、共助・公助としての社会保障制度自助としての保険、日本の社会保障制度の課題や自助・共助・公助の適切な組み合わせなどについて学ぶ内容としています。

全1編

- オープニング映像
- 社会保障制度とは
- 社会保障制度の課題
- リスクに備える保険とは
- リスクに備える3つの「助」

再生時間 約7分

保険のキホン編

「保険の役割」「社会保険と民間保険」の2つのテーマがあります。

「保険のキホン編」では、保険とは、万が一リスクが生じてしまったときの経済的な損失に備えるためのものであること、さらに保険には「社会保険」と「民間保険」の2つがあることなど、保険の基本的な知識を得ることができます。

全3編

再生時間 約9分50秒

再生時間 約7分30秒

再生時間 約7分30秒

やってみたいこと編

「やってみたいこと編」には7つのテーマがあり、選択して学習できます。

「やってみたいこと編」では、生徒が「やってみたい!」と思っている事柄に潜むリスクの例をあげながら、それによって生じてしまった経済的な損失に備えるものとして「損害保険」が存在することを学習できます。

全6編

再生時間 約11分30秒

再生時間 約12分45秒

教員の皆さま向け

教員用手引書



A4サイズ/40ページ

教員用手引書には、教員の皆さまが生徒用冊子を使って授業を実施する際に参考となる情報を掲載しています。各教科書の対応単元や、生徒用冊子の各ページのポイントおよび補足資料をはじめとして、課題「Think」の解答例や、コピーして利用可能なワークシートも用意しています。

そのほか、授業展開例や授業での生徒への問いかけアイデア、実際の授業事例なども紹介しています。

コピーして利用可能なワークシート

「Think」の解答例

各教科書の対応単元

各ページのポイントや補足資料

各教材のダウンロードはこちら!

ここで紹介した各教材は、日本損害保険協会ホームページ内「損害保険教育支援サイト」の「高校生向け教材」に掲載されています。なお、掲載されているデザイン、内容については今後変更の可能性がります。



<https://www.sonpo.or.jp/education/high/>